ITを活用した金融の高度化に関するワークショップ（第3期）

第2回「データを活用した金融の高度化」

概要と論点整理

2017年12月20日
日本銀行　金融機構局
金融高度化センター

Bank of Japan

目　次

１．金融におけるデータ活用

２．融資業務へのデータ活用

３．顧客支援へのデータ活用

４．データ活用の課題

1. 金融におけるデータ活用

顧客支援

（例）顧客のデータを活用したビジネスマッチング

市場運用

（例）オンライン上のニュースを解析し、市場価格を予想

不正利用検知

（例）インターネットバンキングにおける不正取引を検知

預り資産販売

（例）顧客情報を活用し最適な預り資産を提案

融資業務

（例）商流情報等から融資の可否等を決定

２. 融資業務へのデータ活用

（1）従来の与信評価の課題①

財務実績による企業の評価
（不動産担保、保証による保全）

財務実績で評価される（もしくは保全が厚い）企業への融資の集中

⇒ 金融機関にとっては貸出金利の下押し圧力

財務以外の情報の不足

⇒財務的な蓄積のない企業の資金調達は困難

（1）従来の与信評価の課題②

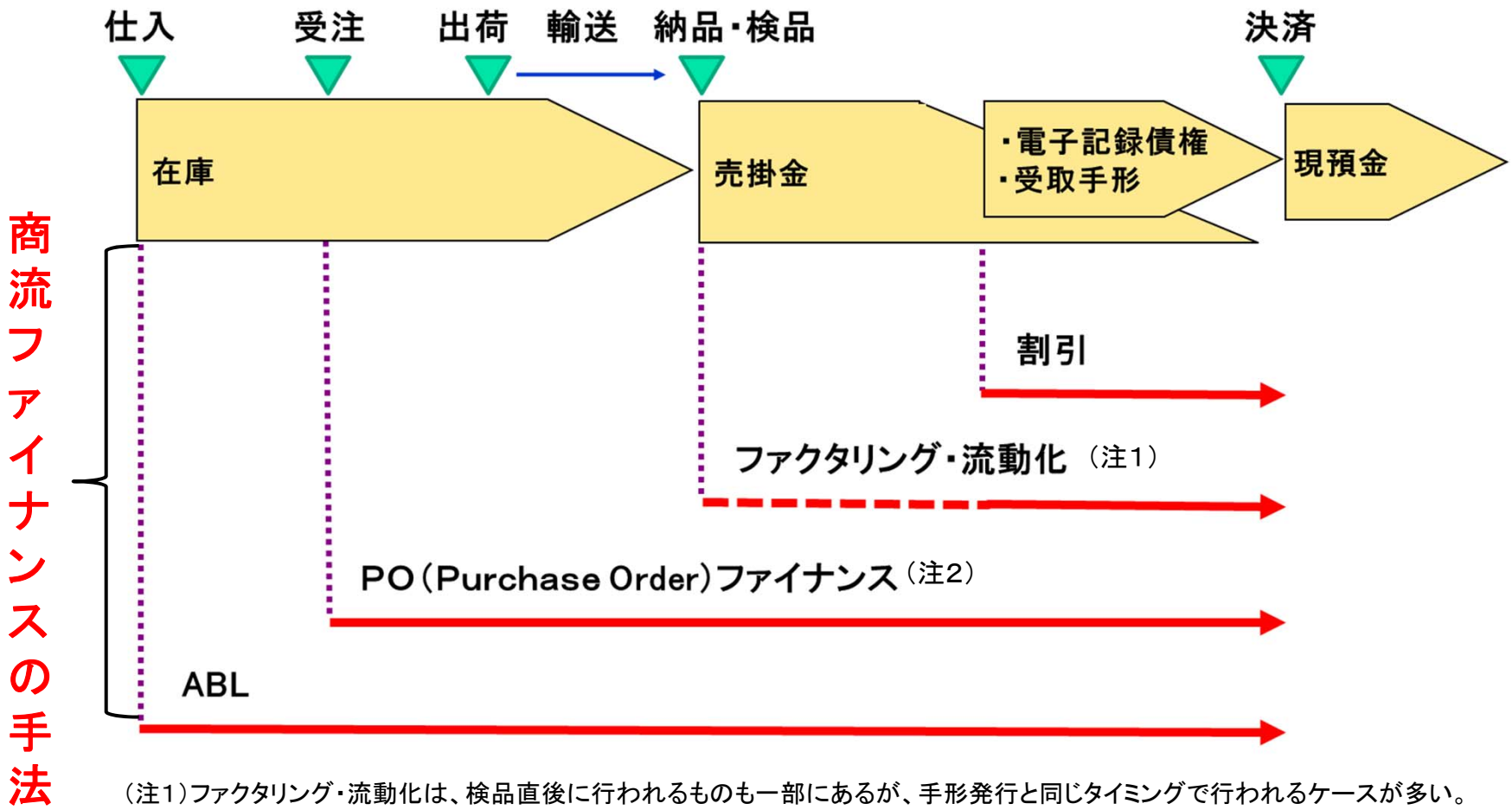
財務実績による企業の評価

↓

実態との乖離

変化と認識の遅れ

（2）商流ファイナンス①



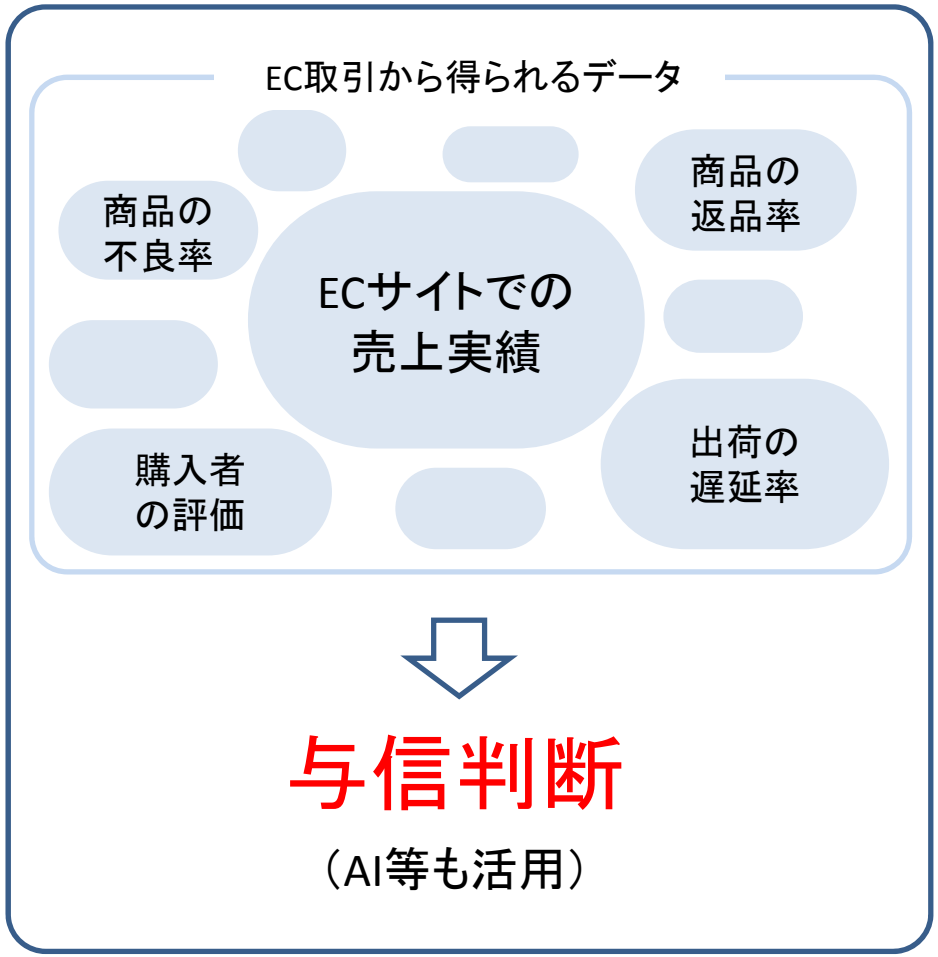
（注1）ファクタリング・流動化は、検品直後に行われるものも一部にあるが、手形発行と同じタイミングで行われるケースが多い。
（注2）POファイナンスとは、受注情報を裏付けとした貸出手法。

（2）商流ファイナンス②

①ECサイト運営会社以外の主体による、
②預金口座の入出金情報、クラウド会計データなどの活用も

▽トランザクションレンディングの一例

ECサイト運営会社



融資

ECサイト出店者

◆特徴点
①簡易な手続
②スピーディな審査
③無担保・無保証 など

（3）商流ファイナンスの課題

✓ ABL

→　動産や債権の把握コスト

✓ POファイナンス

→　受注情報の確認方法の問題

✓ 入出金情報を活用した与信

→　自行口座以外の入出金データの収集の限界

3. 顧客支援へのデータ活用
（1）商流情報を活用したビジネスマッチング

▽鹿児島銀行「KeyManシステム」

（出所）鹿児島銀行（第1期・第5回商流ファイナンスに関するワークショップ資料）

（2）金融機関における事業承継支援の課題

① 経営者は、融資の引揚げ等を懸念し、休廃業を金融機関に相談しにくい

② 自主廃業先は、金融機関からの借入が少なく、金融機関との取引関係が希薄

⇩

休廃業の事前把握は困難（であったが）

４．データ活用の課題

①データの正確性

→　ノイズ、改ざん可能性、解釈の余地

②入手可能なデータの範囲

→　複数のECサイトの活用、ECサイト以外での取引

③データ化されていない情報の存在

→　経営者の人柄

④データのオープン化とオーナーシップ

→　権利、機密性、個人情報保護

⑤AI活用の課題

→　判断のブラックボックス化

本資料に関する照会先

日本銀行金融機構局金融高度化センター

電話　03－3277－1135

email caft@boj.or.jp

- 本資料の内容について、商用目的での転載・複製を行う場合は予め日本銀行金融機構局金融高度化センターまでご相談ください。転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。
- 本資料に掲載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、日本銀行は、利用者が本資料の情報を用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。